

平成28年度 事業実施報告書

一般社団法人 北陸地域づくり協会

事業名 (個別メニュー)	「横田切れをたどる」編集・発刊事業	事業経緯	新規	実施体制	主催	担当所属	企画部
事業名 (大項目)	国土の利用・整備・保全に関する資料等収集整理事業	分類名 (中項目)	資料収集・編纂事業			事業区分	調査、資料収集

1. 事業目的

明治29(1896)年7月に発生した「横田切れ」は、越後平野のほぼ全域が浸水し、大河津分水路建設の契機となった歴史的水害である。この大水害から1世紀以上が経過するなか、今では風化どころか「横田切れ」という呼称すら知らない地域住民も多い。一方、東日本大震災をはじめ大災害が頻発する時代にあって、過去災害の伝承・学びを地域の防災・減災力の向上に活かしていくことの大切さが広く認識・共有されてきている。

「横田切れ」から120年の節目に、あらためてこの大水害に対する認識の深化を促す資料をとりまとめ、広く公開することにより災害に対する安全・安心な地域づくりの一助とする。

2. 事業実施体制

制作・発行：一般社団法人 北陸地域づくり協会
編集デザイン、印刷・製本：委託

3. 事業実施概要

- 書名：『横田切れをたどる』
- 発行年月：平成28年8月
- 仕様：A4判オールカラー、28p
- 発行部数：2,000部
- 配布先：新潟県内の公立図書館(大学附属含む)、信濃川大河津資料館、国・県・市町村の建設・防災部局 等
- 特記事項：
 - 「横田切れ」の惨状を記録し今に遺る資料(図画22点、写真27点)を、概ねの描写地とともに全掲載
 - 信濃川下流域における、先人の水害との関わりがうかがい知れる史跡、施設等をマッピング
 - 「横田切れ」当時の体験談や今に伝える語り部の話を収録

4. 事業実施による効果(評価・貢献度等)

「横田切れ」の惨状を描いた絵と実態を写した写真は、被害の全容把握や後世への伝承という観点で重要な資料であり、それらが遺された背景と各地の資料を結びつけることで、先人が大河津分水路建設に込めた願いを知ることできる。また、マップを併載しており、近年盛り上がりを見せるインフラツーリズムに適う資料ともなっている。

国土交通省や燕市が主導した、横田切れから120年のメモリアル諸行事で配布したほか、信濃川大河津資料館の来館者に自由配布しており、たいへん好評を博している。

